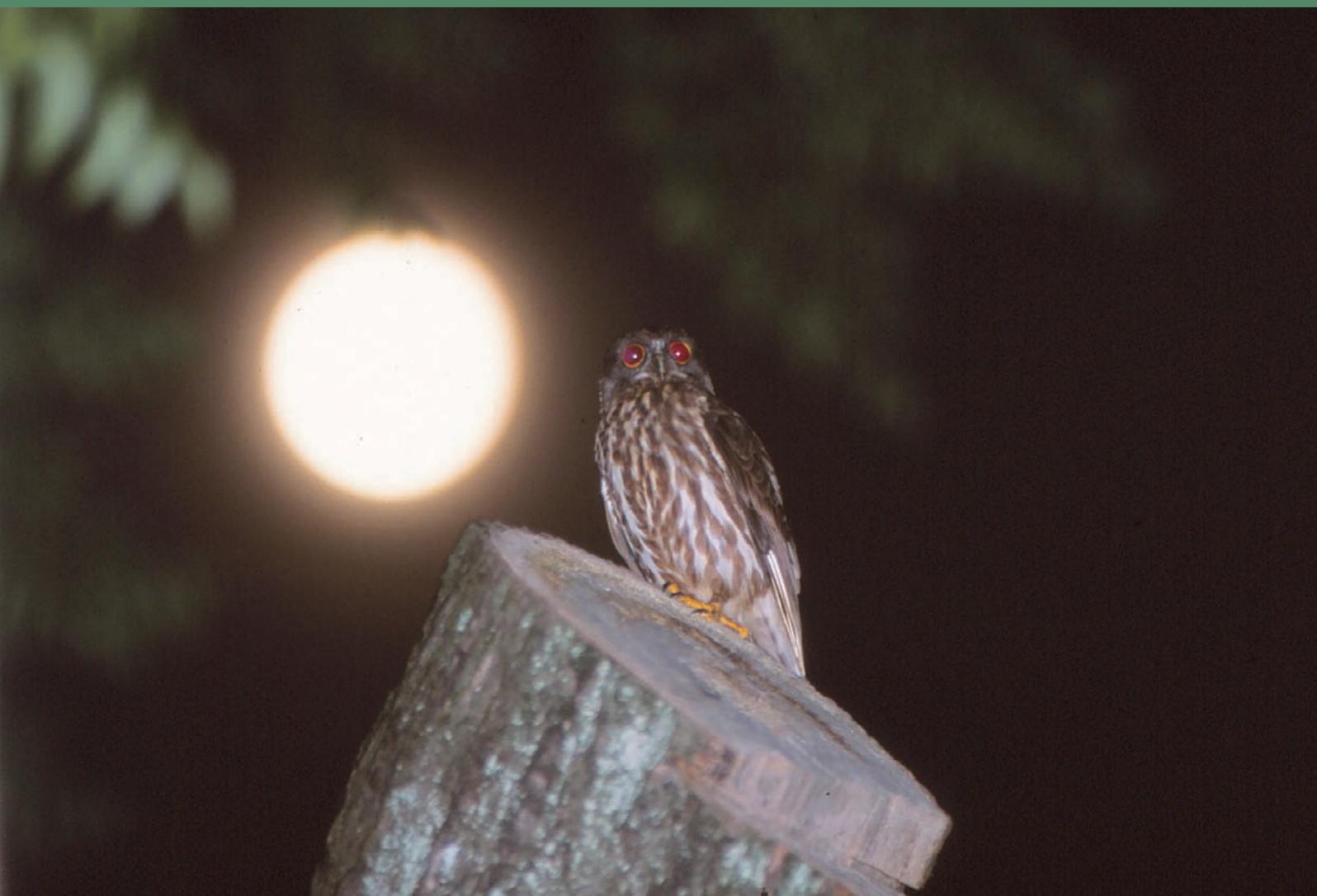


きょうさいだより

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper



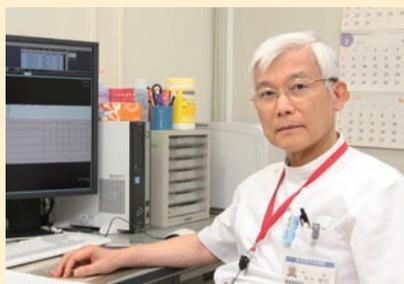
「月とアオバスク」 撮影：かまち歯科医院 蒲地 正哉 先生

INDEX

- | | | | |
|------------------------|---|-----------------------|---|
| ●ごあいさつ 院長 木寺 義郎 | ① | ●旅客船事故対応訓練に参加して | ⑤ |
| ●地域連携室長就任のご挨拶 | | ●趣味を語る ボウリング | |
| ●第15回市民公開講座の開催報告 | ② | ●地域医療連携室より | ⑥ |
| ●救急看護認定看護師の紹介 | | ●駐車場出口に関するお願い | |
| ●診療活動の現況 | ③ | ●編集後記 | |
| — 耳鼻咽喉科医 — | | ●外来診療担当表 | ⑦ |

ごあいさつ

院長 木寺 義郎



高齢の患者さんの増加で在宅医療への関心が高まるなかで、在宅医療に取り組む診療所とこれを支援する基幹病院との医療連携、いわゆる病診連携が広がりを見せています。病診連携のなかでも相互の医療機能を最も良く活かしたものとしてオープンシステムがあります。産科のオープンシステムの場合は妊婦健診を診療所で担って頂いて、帝王切開による分娩が必要と診断された妊婦さんについては一度基幹病院に紹介して頂いて、母体および胎児の状況から適切な日を選んで、紹介元の先生と一緒に病院で手術を行うというものです。

本院でも10年以上前から取り組んできましたが、これまでは年間3件程度でした。最近になって病診連携への理解が深まり、周産期部長を始めとする院内の担当者の尽力で本システムが順調に稼働し始めました。2つの診療所の先生がシステムに登録されていますが、今年度に入って帝王切開を受けられた妊婦さんは6人に達しています。メリットは妊婦さんにとっては、とくに佐世保市までのアクセスが不便な場合に健診を地元の診療所で受けることで通院の負担が少なくなります。診療所にとっては帝王切開に備えて麻酔科医、小児科医を確保する必要がなく、周術期に関わる業務が縮小されます。基幹病院の方でも外来での健診業務を軽減させることができます。

ただし、課題もあります。帝王切開時に新生児の管理を行う小児科医の数が少なく、手術日の選定に制約があることです。小児科の診療体制が充実し、本システムがもっと発展して正常分娩にも適用されるようになれば、懸念されている周産期医療体制の衰退にも歯止めがかけられるのではないかと思います。



開業医の先生（左）との帝王切開術の様子

地域連携室長就任のご挨拶

診療部長 井原 司



平成27年4月より萩原博嗣前副院長の後任として地域連携室長になりました。本院の連携室は本院（各部署）と、地域の医療機関や福祉施設、行政機関等と密な連携をすることにより、患者さんや家族、地域の皆さんに良質な医療や情報を提供しています。また患者さんや家族の方々の医療、介護、福祉に対する相談や案内も連携室で行っています。

本院で対応できる疾患、救急疾患は必ずお受けする体制づくりをしたいと考えています。医師、ソーシャルワーカー、専任看護師、専任事務職、スタッフ一同頑張っていく所存でございます。本院、ならびに連携室をご利用いただけますようスタッフ一同お願い申し上げます。なにかご不明な点、ご意見がありましたら、連携室にお伝えください。

第15回市民公開講座の開催報告

内視鏡センター長 宿輪 三郎

癌死の中で大腸癌の死亡数は2014年に女性で1位、男性で3位となり、さらに今後、増加する傾向にあります。大腸癌は罹ってしまうと死ななければならないような病気なのでしょうか？違います。大腸癌は癌の中では治療しやすい癌で早期発見すれば完治できる病気なのです。

8月8日（土）に開催された市民公開講座では大腸癌を理解し撲滅するために、1. 大腸癌の疫学（長崎県の現状：長崎医療政策課 藤原勝浩課長補佐）、2. 大腸癌の診断と治療：①大腸CT（長崎市民病院 本田哲郎医長）、②大腸癌の内視鏡治療（当院 宿輪三郎）、③大腸癌の化学療法（九州大学医学研究科 馬場英司教授）、3. 予防（食事療法：当院栄養科 安岡幸）について講演を行いました。非常に暑さが厳しい中に多くの市民の方々に参加して頂き、熱心に聴取して頂いたことは演者として感銘を受けました。



最後に今回の講演で市民の方にお伝えしたかったことは、次の3つのことです。①50歳になったら毎年、健診（便潜血検査）を受ける。②50歳になったら5年毎に大腸内視鏡検査か大腸CTを受ける。③腹部症状（下血、腹痛、便通異常）があれば一人で悩まずにかかりつけ医の先生に気軽に相談する。この3つのことを実践することが重要だと思います。

救急看護認定看護師の紹介

救急看護認定看護師 乾 広貴（救急担当師長）



乾師長と松井看護師

近年、総人口の4人に1人が65才以上という超高齢社会に伴い、救急医療に対するニーズも高まっています。当院は佐世保市の中心部に位置し救急告示病院として長崎県北地区における2次救急医療の一部を担っています。救急の現場は通常の臨床とは違った背景の場合も多く、様々な能力が求められます。救急患者は時と場所を選びません。また少ない情報から、病態の緊急度・重症度を判断し患者の急激な変化に対応することが重要です。そのためスタッフは救命技術や臨床推論・危機的状況に陥った患者及び家族看護などに対する能力が必要とされます。

その教育に携わる事も救急看護認定看護師の役割であります。今年度、当院では新たに1名の救急看護認定看護師が加わりました。県内に18名しかいない救急看護認定看護師のうち、当院では2名体制で活動できることは嬉しい限りです。患者さんに対し質の高い看護を常に提供するためには、日頃の備えが大切です。日本救急医学会や救急看護学会では、救急医療に従事するスタッフの資質を維持向上するために様々な研修が開催されており、当院からも多くのスタッフが参加しています。今後も、各職員と協力しながら当院の救急看護の質の向上に努め、県北地域における救急医療に貢献できるよう努力していきたくと考えています。

【はじめに】



耳鼻咽喉科 部長
田浦 政彦

耳鼻咽喉科では耳疾患、鼻疾患、咽喉頭疾患、頭頸部腫瘍、小児耳鼻咽喉科疾患、めまい、顔面神経麻痺、嚥下障害などの診療を行っています。外来診療は月曜から金曜まで午前中のみです。火曜、水曜、金曜の午後は手術、月曜と木曜の午

後は術前検査、細胞診検査、嚥下検査などの検査を行っています。

【耳疾患】

難聴の方には聴力検査、DPOAE（歪成分耳音響放射）、ABR（聴性脳幹反応）、CTやMRIなどの画像検査を行っています。突発性難聴は突然片方の聴力が低下する原因不明の疾患で、治療開始が遅れると治りにくくなるため早期の治療をお勧めし、ステロイド療法と高気圧酸素療法の併用による治療を行っています。

急性中耳炎は感冒や鼻炎に続いて起こる疾患で、小児に多く、内服薬の治療で改善しない場合は鼓膜切開を行います。保存的治療にて改善しない滲出性中耳炎の方にも鼓膜切開や鼓膜チューブ挿入術を行っています。

慢性中耳炎は鼓膜穿孔による難聴や耳漏を生じる疾患で、鼓膜穿孔閉鎖術や鼓室形成術を行っています。真珠腫性中耳炎は、難聴、耳漏、めまい、顔面神経麻痺の原因となることがあり、手術をお勧めしています。

顔面神経麻痺は顔の動きが悪くなる疾患で、最も多い原因はベル麻痺です。発症早期の治療開始をお勧めし、ステロイド療法と抗ウイルス薬投与による治療を行っています。

耳疾患（H26年度入院症例）

突発性難聴	63
滲出性中耳炎（手術症例）	18
顔面神経麻痺	14
慢性中耳炎（手術症例）	10
真珠腫性中耳炎（手術症例）	5

【鼻副鼻腔疾患】

スギ花粉による花粉症の方には舌下免疫療法を行います。花粉飛散期には開始できず、治療には長時間かかります。鼻閉が強い鼻炎の方には鼻腔粘膜レーザー焼灼手術を行っています。レーザー手術で鼻閉が改善しない方や鼻中隔彎曲のある方には、下鼻甲介骨切除術や鼻中隔矯正術を行っています。保存的治療で改善しない副鼻腔炎や副鼻腔嚢胞に対しては内視鏡下副鼻腔手術をお勧めしています。

鼻副鼻腔疾患（H26年度入院症例）

副鼻腔炎手術、副鼻腔嚢胞手術	43
鼻出血	11
鼻骨骨折（手術症例）	8
鼻前庭嚢胞（手術症例）	2

【頭頸部腫瘍、頭頸部癌】

頸部腫瘍診断のために超音波検査、CT検査、細胞診検査を行います。甲状腺腫瘍、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、頸部嚢胞性疾患に対して摘出手術を行っています。リンパ節腫大の方には組織検査を行うことがあり、悪性リンパ腫と診断された場合は血液内科をご紹介します。副甲状腺腫が原因で血液中のカルシウムが上昇することがあり、副甲状腺腫摘出術を行っています。



手術中の田浦医師

口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、唾液腺癌、甲状腺癌などの頭頸部癌治療も行っています。平成26年度に頭頸部癌で入院された方は47症例あり、頸部郭清術は6例行いました。頭頸部癌切除手術による組織欠損に対して移植による再建手術

を行う場合があります、九州大学病院に手術応援をお願いし、再建手術を4例行いました。進行頭頸部癌に対しては手術、放射線治療、化学療法による集学的治療が必要になる場合があります。放射線治療に関しては、佐世保市立総合病院や佐世保中央病院に協力をお願いしております。根治切除困難症例に対しては、分子標的薬を中心とする化学療法を行っています。

頭頸部腫瘍（H26年度手術症例）

甲状腺腫瘍	13
耳下腺腫瘍	12
口腔腫瘍	11
顎下腺腫瘍	4
副甲状腺腫	2

【口腔疾患、咽喉頭疾患】

口腔疾患の中で唾石、口唇嚢胞、舌腫瘍に対しては摘出手術を行っています。

急性扁桃炎や咽喉頭炎による炎症が強い方には入院治療を行っています。扁桃周囲膿瘍の方には切開排膿を行うことがあります。慢性扁桃炎で扁桃炎を繰り返す方には口蓋扁桃摘出術をお勧めしています。声帯ポリープや声帯腫瘍などの声帯疾患の方には、喉頭直達鏡下の摘出手術を行っています。

咽喉頭疾患（H26年度入院症例）

慢性扁桃炎（手術症例）	44
急性扁桃炎、急性咽喉頭炎	27
扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍	13
声帯疾患（手術症例）	11

【小児耳鼻咽喉科疾患】

いびきや睡眠時無呼吸の治療として、アデノイド切除術や扁桃摘出術を行っています。手術により咽頭腔が広がると無呼吸が改善します。感染歴のある先天性耳瘻孔の方には、耳瘻管摘出術を行っています。

【めまい】

めまいの方には、聴力検査、重心動揺検査、平衡機能検査などを行い、メニエール病、良性発作性頭位めまい症、前庭神経炎など耳疾患が原因の場合は当科で治療を行っています。ふらつきが強い方には入院治療をお勧めすることがあります。平成26年度は29例の入院症例がありました。疾患によっては投薬だけではなく、理学療法やリハビリも行っております。

【嚥下障害】

飲み込みにくい、むせやすい、肺炎を繰り返す、などが嚥下障害を疑う症状で、高齢化に伴い嚥下障害の方は増加しています。嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を行い、内服薬、食事形態の工夫、嚥下訓練、嚥下改善手術などによる治療を行っています。頭頸部癌治療を行う場合、手術や放射線照射の影響で嚥下障害を生じることがあり、適切な嚥下訓練により機能低下を防ぐようにしています。1年間で103例の嚥下検査を行い、平均年齢は72歳でした。

【おわりに】

耳鼻咽喉科外来は医師2名、看護師・看護助手4名で診療に当たっています。入院が必要となる方、手術を行う方、術後の方、画像検査が必要な方を中心に診療を行っています。症状が安定している方には開業医の先生をご紹介しますことがあります。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

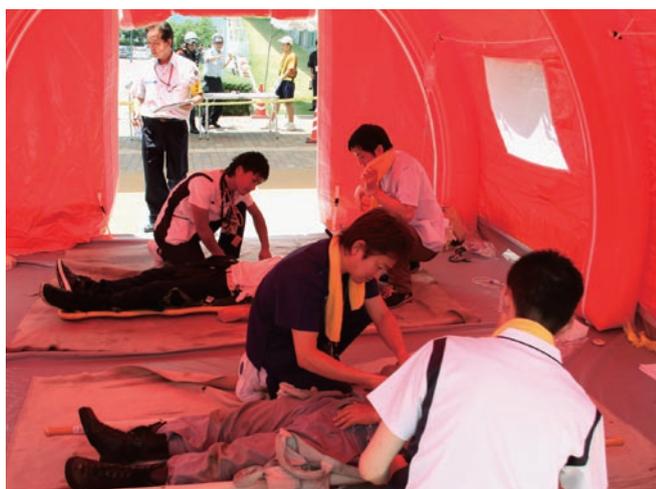
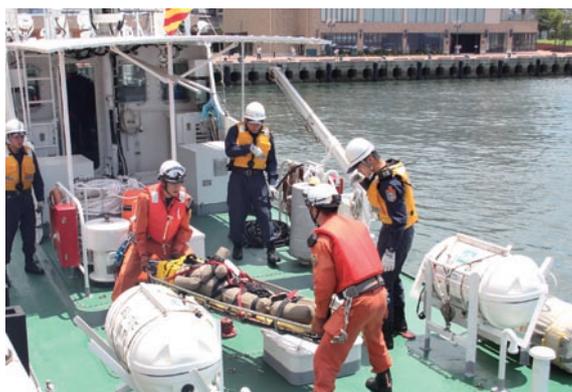


田浦医師（後列左）と外来スタッフ

旅客船事故対応訓練に参加して

医療連携室 村岡 昭治

7月9日（金）に、旅客船が海難事故を起こし多数傷病者が発生したとの想定で、佐世保海上保安部と佐世保市消防局合同による救出・救護訓練に、当院の医療スタッフとして、整形外科部長水城医師、看護師の乾、本田、西原の3名、事務担当2名、計6名が参加しました。本来、災害現場へ医療スタッフを要請する場合は、DMAT医療チーム、又はドクターヘリを優先要請することになっておりますが、今回は、訓練現場に近いことと他機関との連携を深める目的で参加しました。



エアートtent内での救護活動

消防局が設置したエアートtentを応急救護所として、船内から搬送されてくる模擬負傷者10名を1名ずつ診察、止血、固定、ルート確保などの応急処置を施し、重症度・緊急度のトリアージを行い救急隊への引き継ぎなどの一連の医療救護活動を実施しました。

テント内で活動するスタッフは、気温30度を超える中、滝のように吹き出す汗をタオルで拭きながら、約1時間の訓練を休むことなく頑張りました。当院で、多数傷病者を受け入れた場合に、この体験が活かされる訓練だと実感しました。

趣味を語る ボウリング

給食課調理師 野村 佳子

9月26日から10月2日に開催される和歌山国体のボウリング競技に長崎県代表として参加します。去る7月中旬に大分で行われた国民体育大会九州ブロック大会で、個人、2人チーム、4人チーム戦の戦いの末、長崎県は成年男子、成年女子、少年男子の3チームが国体への出場権を獲得しました。

私が本格的にボウリングを始めたのは3年前、知人に誘われ教えてもらったのがきっかけでした。ボウリングは知れば知るほど奥深く、ただ10本あるピンを倒すだけという一見簡単なスポーツに見えますが、高スコアを出すにはレーンのオイルコンディションやボールの表面素材、リリーステクニックやスピードコントロール等他にも様々な要素が必要とされ、更に技術だけでなくメンタルも重要視される競技だという事が解ってきました。

国体に出場するにあたり、職場のスタッフやボウリング仲間、多くの方々の協力に感謝し、長崎県代表として、また佐世保共済病院の職員として最後の一投まで諦めず精一杯頑張ってきました。ご声援よろしくお願いします。



地域医療
連携室より
Part.
29

高田外科医院

〒857-0041 佐世保市木場田町6-26

TEL 0956-23-8111

院長 高田 俊夫 先生



私は佐世保市役所の裏で高田外科医院を開業して27年になります。1988年以來盲腸の手術に始まり、胃癌、大腸癌、乳癌、胆石症等300例以上の手術を行ってきました。しかし、時代は変わり手術も高度になりました。14年前に手術も入院もやめました。今は小手術を行ったり、高齢者患者の内科的治療や腰・膝・肩等の整形外科的疾患の治療を行っています。

さらに、乳癌、肺癌、大腸癌や前立腺癌の検診事業を積極的に行っております。時代が変わり医療の高度化が進むと、高度先端医療を行う専門病院と私達開業医の役割分担がはっきりしてきました。私達は可能な限り早く患者さんの重症度を見抜き、一分でも早く専門病院へ紹介を行わなければならない時代になりました。以前の「夕方6時以降は診察しないかかりつけ医」というイメージから、今や「緊急時かかりつけ医」としての大きな役割が求められる時代となってきたのです。従って、それらを確実に実行するためには、どの疾患の専門医がどの病院に存在しているか、そして可能な限り24時間オープンチャンネルの状態であるかが必要になってくると思います。佐世保市内でもこの10年間、着々とそうした緊急事態への対応システムが整備されつつありますが喜ばしい限りです。



先生とスタッフの皆さん

私は共済病院での勤務経験はありませんが、最近共済病院の或る科においては24時間対応して戴いており大変助かっています。願わくば全ての科においても緊急対応をして戴ければ私達かかりつけ医も励みになると思います。

当院も専門病院への紹介患者は年間600名を超えました。これからも「かかりつけ医」の機能を発揮して行きたいと思います。その意味でも共済病院との益々の病診連携が深まることを希望しております。



ご注意ください！



駐車場から出られる際に逆走される事例が起きています。皆様の安全のため、一方通行となっていますので、オレンジ色のルートに添って出口までお進みください。



編集後記

明治日本の産業革命遺産として長崎県から「旧グラバー住宅」や「端島炭坑（いわゆる軍艦島）」など、8か所が世界遺産に登録されることとなりました！ 当院の設立も同じく明治時代、今年で創立105年目になります。これからも地域の皆様に愛される病院として存続できるよう職員一同頑張っております。

編集委員 森木 達彦



佐世保共済病院 外来診療担当表

平成 27 年 9 月 1 日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考 (専門分野・特徴など)
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
腎臓内科	部長	福成 健一	●						●				腎臓疾患・人工腎臓
	医長	金谷 晶子			●		●						腎臓疾患
	医員	野中 康德	●						●				腎臓疾患
	〃	内海 沙織					●				●		腎臓疾患
循環器内科	部長	金谷 誠司					●	●					循環器疾患
	医員	片伯部幸子	●					●					循環器疾患
	非常勤医	田渕くみ子									●		循環器疾患
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患
	〃	溝口ミノリ			●								循環器疾患
	〃	原口 剛									●		循環器疾患
呼吸器内科	非常勤医	水田 佑一					●						呼吸器疾患
	〃	藤内 研									●		呼吸器疾患
糖尿病内科	非常勤医	牟田 芳美					▲	▲					▲は第2・4週のみ診察を行います
消化器内科	副院長	井口 東郎					●	■					膵がん・胆道がん ■は紹介患者のみの受付になります
	部長	河野 健次			●		●						肝臓疾患
	内視鏡センター長	宿輪 三郎	●								●		消化器内科疾患
	部長	丸山 祐二	●						●				消化器内科疾患・消化器がん
消化器センター					●						●		(診療内容) 上部・下部消化管、肝・胆・膵疾患の検査及び治療
外科	診療部長	井原 司					●	●					消化器外科・肝胆膵臓外科・内視鏡下外科・一般外科
	部長	原田 洋			●						●		消化器外科・乳腺外科・一般外科
	〃	富崎 真一	●				●						消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	医長	三笠 圭太	●		●						●		血管外科・一般外科
	〃	佐藤 寿洋			●						●		消化器外科・一般外科
	医員	南 泰山	●						●				一般外科
	〃	中根 浩幸					●				●		一般外科
	非常勤医	川畑 方博					●						肝胆膵臓外科・消化器外科・一般外科
乳腺外来			●		●		●	●			●		※乳癌検診は、10時までに受付を行って下さい(要予約)
		佐藤			中根		原田	原田			南		
小児科	診療部長	岡 尚記	●		●		●	●			●		小児一般、小児アレルギー疾患、気管支喘息
	部長	合田 裕治	●		●		●	●			●		小児一般、小児アレルギー疾患、食物アレルギー、気管支喘息
	乳児健診					●							火曜 午後1時から診察開始 午後2時までに受付を行って下さい
	慢性外来							●					水曜 午後2時から診察開始
整形外科	院長補佐	萩原 博嗣	●								●		膝・股関節疾患、人工関節置換術、骨折、スポーツ障害、小児整形外科
	部長	水城 安尋			●		●				●		上肢の外科(肩肘手)、足部外科(外反母趾等)、スポーツ障害
	医員	佐々木 大	●				●		●				膝股関節疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍
	〃	内村 大輝			●				●		●		上肢の外科(肩肘手)、スポーツ障害
	〃	上田 幸輝	●				●				●		整形外科一般
	〃	伊東 孝浩	●				●		●		●		整形外科一般
	〃	溝口 孝			●		●		●				整形外科一般
泌尿器科	副院長	山田 潤	●				●				●		尿路結石、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路感染、男性不妊(江口)
	部長	江口 二郎	※		●				●				▲は第1週のみ10時30分からです
	〃	中村 貴生	※		●		●		▲				※の第2・4週(江口)第1・3・5週(中村)が診察を行います
産婦人科	院長	木寺 義郎	●								●		産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	部長	鶴地 伸宏	●		■		●	●			●		腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患
	〃	木下秀一郎			●		●		■		●		●：婦人科診療日 ■：産科診療日
	〃	松隈 敬太							●				
	医員	友延 寛	●■		●				●		■		
眼科	医長	原 潤	●		●	※	●	※	●		●	※	白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、眼瞼下垂手術 翼状片手術、レーザー光凝固術
	※：火・水・金曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)												
耳鼻咽喉科	部長	田浦 政彦	●		●		●		●		●		頭頸部腫瘍、嚥下障害、耳・鼻・咽喉頭・頸部などの手術
放射線科	部長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。									MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査	
	医員	溝口 圭輔											
麻酔科	部長	深野 拓	●		●						●		月～金午前ペイン・緩和ケア外来
	医長	木本 文子			●				●				月～金午後は手術麻酔
	医員	佐々木誉詩子											
病理診断科	顧問	井関 充及											細胞診断・病理組織診断全般
歯科口腔外科	部長	窪田 泰孝	●	●	●	●	●		●	●	●	●	歯科口腔外科、インプラント、顎顔面外傷、顎関節症、口腔腫瘍
	医員	藤永 貴大	●	●	●	●	●		●	●	●	●	菌性感染症など
健診センター	部長	佐藤 浩信	※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。健診センター直通電話 0956-22-6155										
	医長	原 敬一											